

18 博士の学位の取得に対する不安

アンケート調査への回答者数 4,363 人中で、博士の学位の取得に対する不安を「非常に感じた」(1,165 人、27%)「やや感じた」(1,987 人、45%)を合わせると、約 72%となった。「全く感じない」回答者も約 19%いた。

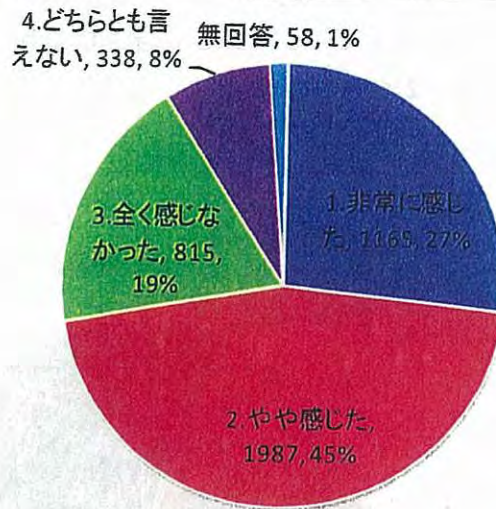


図 II-22 博士の学位の取得に対する不安

「非常に感じた」「やや感じた」理由

博士の学位の取得についての回答として、「非常に感じた」「やや感じた」を選択した回答者に、その理由として聞いたところ(複数選択可)、「修了後の進路に関する不安」(63.0%)、「研究の進捗状況に関する不安」(64.7%)、「金銭面に関する不安」(39.8%)の回答の割合が高かった。

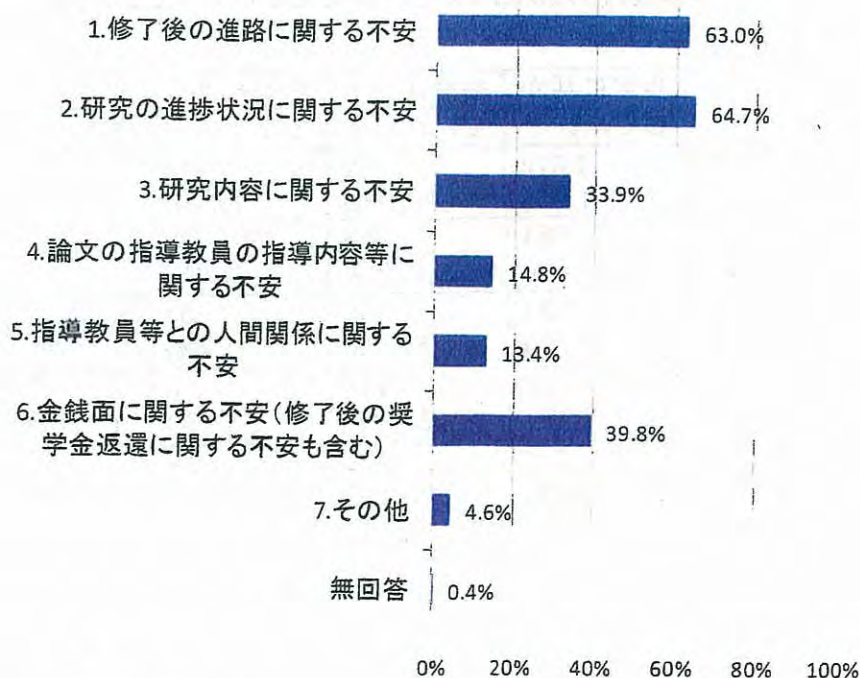


図 II-23 博士の学位の取得に対する不安を「非常に感じた」「やや感じた」理由

19 博士課程で学んだことは現在の職で生かしているか

博士課程で学んだことを現在の職で活かしているかについて、「非常に活かしている」を選んだ者の割合が最も高かった（64%）「やや活かしている」を含めれば94%の回答者は知識を活かしていると考えている。また、「全く活かしていない」と回答した者も71人いたが、割合としては、2%であり低かった。

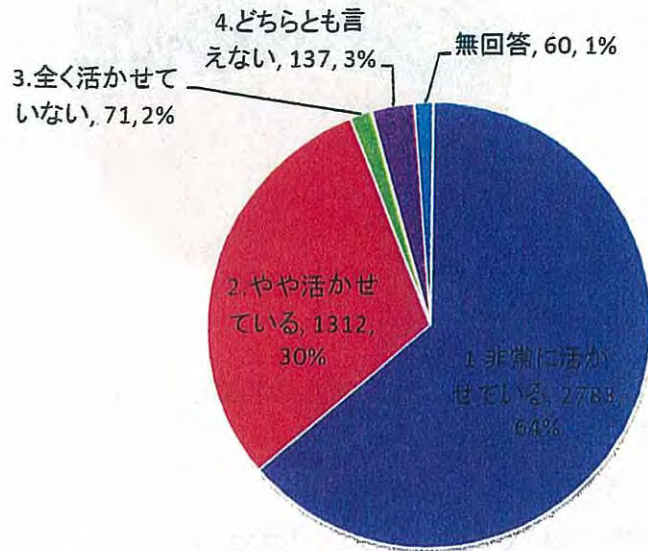


図 II-31 博士課程で学んだことは現在の職で生かしているか

表 II-41 希望する職に就けたかどうかと、博士課程で学んだ知識を活かしているかの関係

	非常に活かしている	やや活かしている	全く活かしていない	どちらとも言えない	合計
希望の職に就けた	1,672 (81.3%)	352 (17.1%)	10 (0.5%)	22 (1.1%)	2,056 (100%)
概ね希望の職に就けた	964 (55.5%)	698 (40.2%)	20 (1.2%)	55 (3.2%)	1,737 (100%)
希望する職に就けなかった	33 (17.7%)	102 (54.8%)	33 (17.7%)	18 (9.7%)	186 (100%)
どちらとも言えない	75 (29.2%)	137 (53.3%)	5 (2.0%)	40 (15.6%)	257 (100%)
合計	2,744 (64.8%)	1,289 (30.4%)	68 (1.6%)	135 (3.2%)	4,236 (100%)

(注) 数字は人数を示す。括弧内は割合を示す。

2.0 有効だった修了後の進路に関する情報やアドバイス

有効だった博士課程修了後の進路に関する情報やアドバイスとして、選択するものを2つまで選んでもらったところ（回答数 4363 人）、「在籍した博士課程の教員からの情報やアドバイス」（62.1%）が最も多く、やや離れて、「在籍した博士課程の学生や修了生からの情報やアドバイス」（26.9%）と「在籍した博士課程以外の教員からの情報やアドバイス」（20.9%）が多かった。対照的に、キャリア・アドバイザーや、大学の就職支援担当部署からの情報やアドバイスは低かった（0.3%と1.0%）。

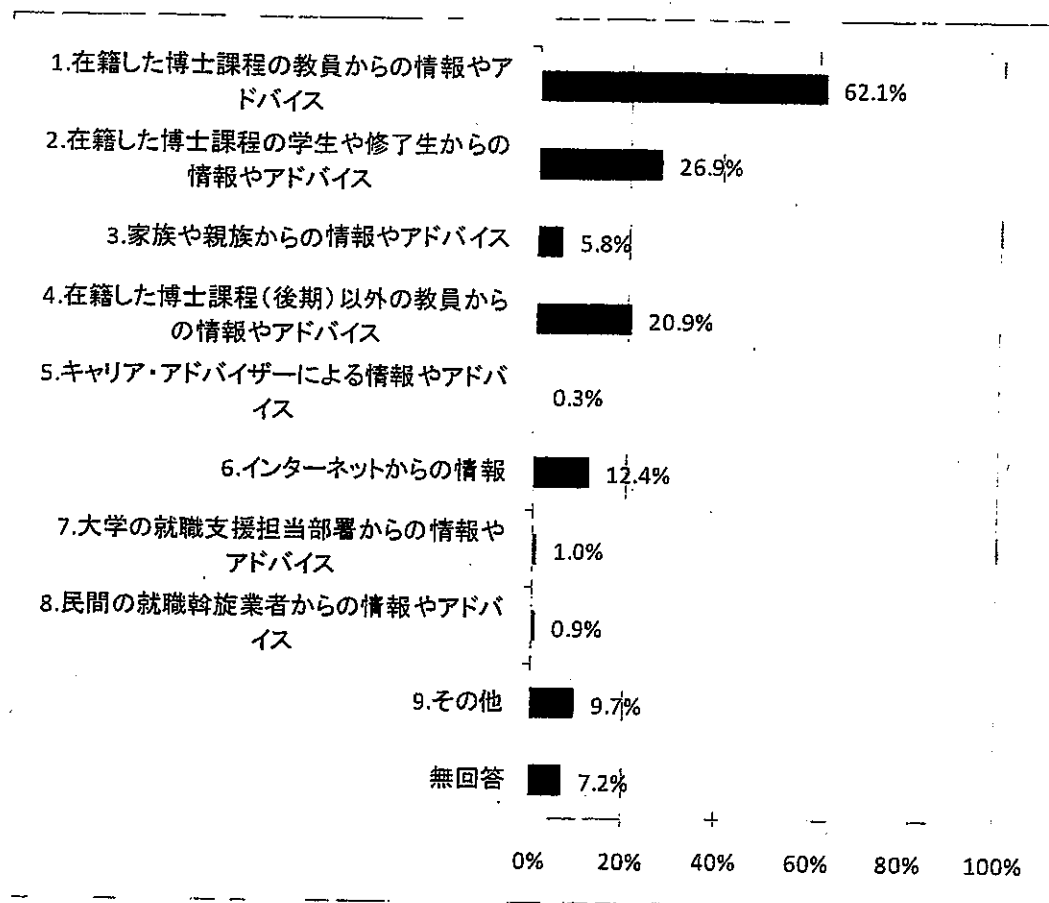


図 II-33 有効だった修了後の進路に関する情報やアドバイス

2.1 博士課程修了後の進路選択に関してすべきであったこと

当てはまるものを3つまで選択してもらったところ、図 II-34 のような結果となった(回答数 4363 人)。「在籍中に幅広く人的ネットワークを構築・活用すべきだった」(46.4%) が特に多かった。その他の選択肢については、いずれも 20%~25% の回答者が選択した。

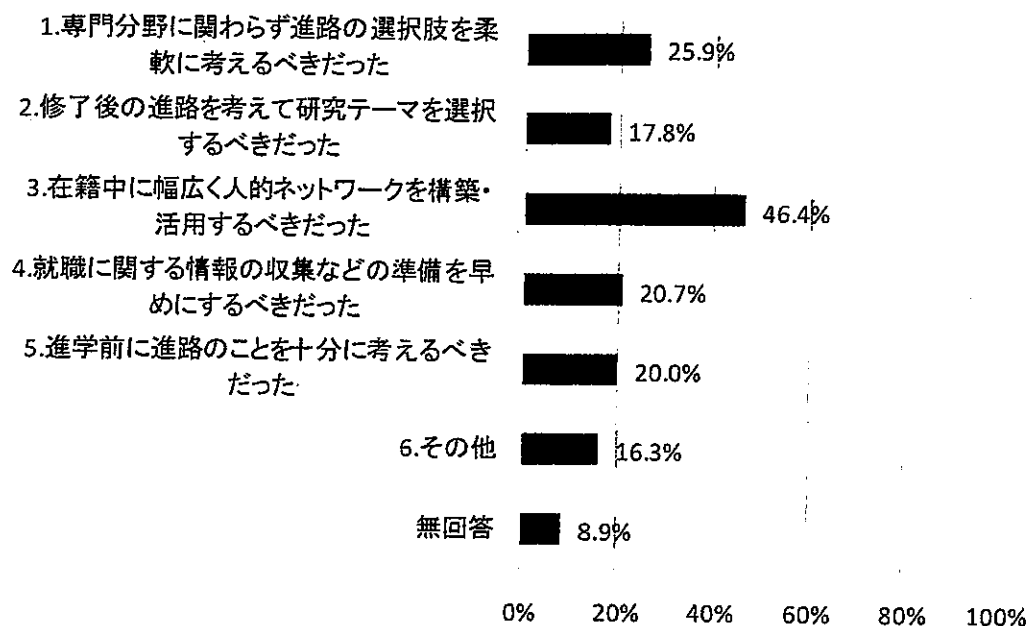


図 II-34 博士課程修了後の進路選択に関してすべきであったこと

2.2 修了後の進路に関する学生への支援に対して大学院に望むこと

この質問に対する回答においては、半数以上の回答者が、「大学教員ポストの拡充」(57.1%)を選択した(全回答数 4363 人)。博士課程修了後の進路についての不安の原因として、「希望する職に就くことが困難だった」を選択した割合が高かったことの裏返しであると言える。他には、「博士課程修了人材に関する求人情報の提示」(35.5%)、「博士課程学生向け企業等説明会など交流の場の設定」(27.1%)、「進路に関するガイダンスの実施」(22.5%)が選択された割合が高かった。

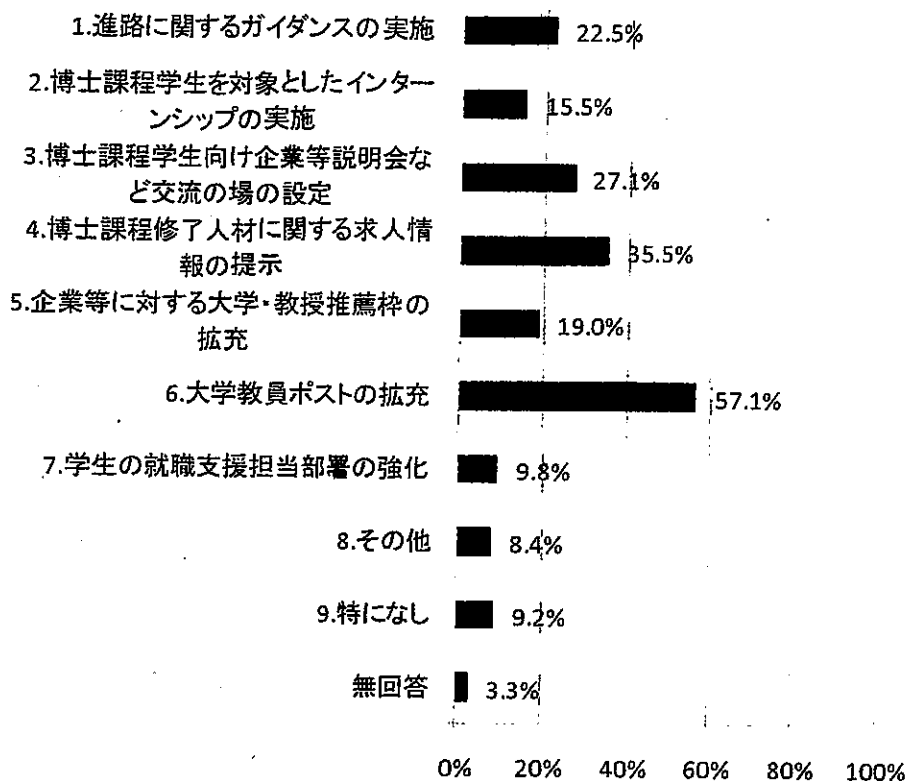


図 II-41 修了後の進路に関する学生への支援に関し大学院に望むこと (アンケート回答者でインターンシップの経験のある場合)

2.3 博士課程の教育研究の内容で大学に対して望むこと

最後に、博士課程の教育研究の内容で大学に対して望むこととしては、国際学会等への参加支援の拡充（42.9%）、海外の大学への留学機会の拡充（41.5%）の割合が高かった（回答数 4363 人）。「企業等のニーズを踏まえた科目の開講」（11.6%）、「企業等へのインターンシップの実施・拡充」（12.1%）、「キャリア・アドバイザーによる就職支援等のキャリア教育の実施」（13.7%）は比較的低かった。

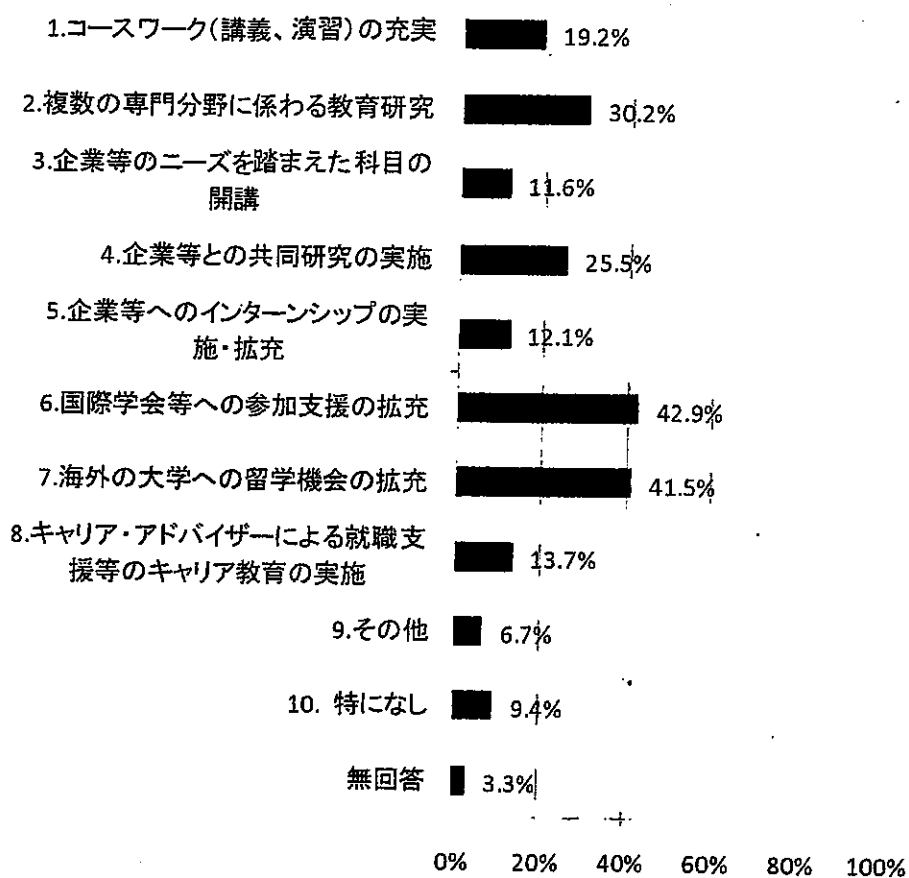


図 II-42 博士課程の教育研究の内容で大学に対して望むこと